

都道府県名

宮 城 県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	仙台市立長町小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	4	4	4	26	36
児童数	122	133	140	125	133	133	5	791	

研究の概要

1. 研究主題

「瞳キラッ！一人ひとりが輝く学校の創造」
- 確かな学びをきずく長町っ子の育成 -

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1～6年生までの算数
 - ・ 1・2・3年生の国語（週1時間程度）
- 算数は昨年度の継続研究であり，子どもの理解度に差が出やすく，高学年になるにつれ個人差が大きくなる。国語は学力を支える主要教科であり児童の理解度を高めていくことが必要と考える。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 瞳キラッ！一人ひとりが輝く学校の創造 - 確かな学びをきずく長町っ子の育成 -</p> <p>視 点 指導内容や指導方法，指導体制などの工夫改善をしていくことで児童に確かな学力を定着させる方策を導き出すとともに，他のフロンティア研究指定校との情報交換や調査研究をおこなう。</p> <p>(1) 確かな学力観の共通理解 (2) 少人数指導の多様な指導形態の試み (3) 等質集団や習熟度別集団・学習内容別等による少人数指導の試み (4) 発展的学習の指導内容の実践</p> <p>研究内容・方法 各学年とも授業研究を通して指導内容や指導方法，指導体制などの工夫個に応じたきめ細やかな指導の実践と記録 学力調査・意識調査等で児童の実態を把握</p>
--------	--

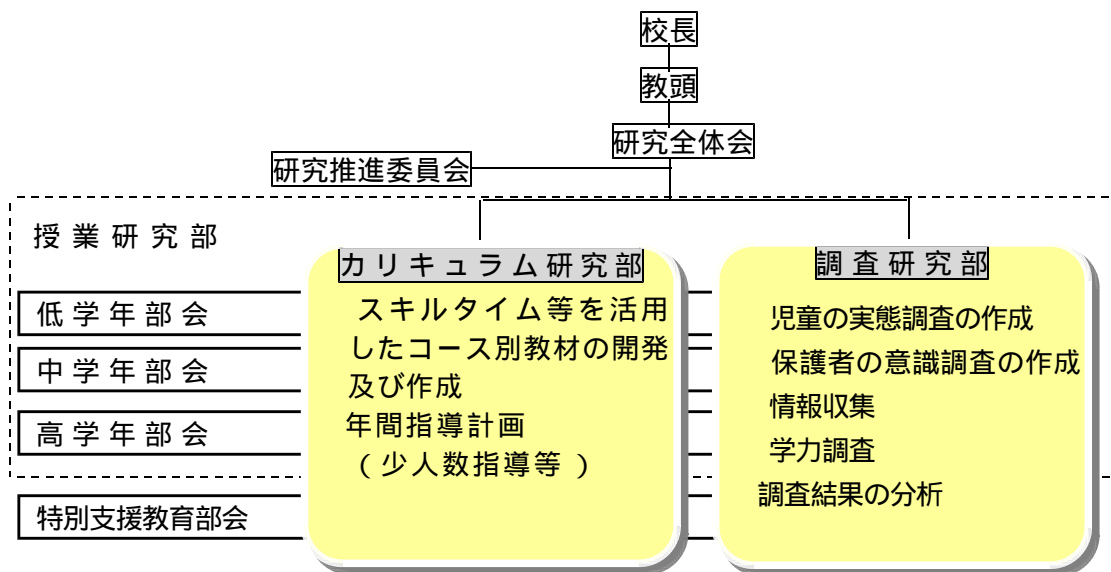
平成15年度	<p>テーマ 瞳キラッ！一人ひとりが輝く学校の創造 - 確かな学びをきずく長町っ子の育成 -</p> <p>目標及び視点 少人数指導等の個に応じた指導及び教科担任制における指導方法，指導体制などの工夫・改善に努め，確かな学びをきずく授業のあり方を探る。</p> <p>(1) 少人数指導の指導内容と形態の工夫 (2) 評価を生かした指導過程の工夫 (3) 発展的学習の指導内容の実践 (4) 一部教科担任制の試み</p> <p>研究内容・方法 手だてによって期待される子どもの姿や学習過程における「確かな学び（瞳キラッ！）」の表れを具体的に想定する。それに照らして教師のかか</p>
--------	---

	<p>わり方が妥当であるかを検討する。</p> <p>(1) 授業全体記録 (2) 抽出児童の記録 (3) 児童の自己評価・感想 (4) 他の学級での実践との比較 ・保護者等の参観を得て、授業についてのアンケート調査等で感想を集約し、参考にする。</p>
--	---

平成16年度	<p>テーマ 瞳キラッ！ 一人ひとりが輝く学校の創造 - 確かな学びをきずく長町っ子の育成 -</p> <p>目標及び視点 少人数指導等の個に応じた指導及び教科担任制における指導方法、指導体制などの工夫・改善に努め、確かな学びをきずく授業のあり方を探る。</p> <p>(1) 少人数指導の指導内容と形態の確立 (2) 評価を生かした単元構成の工夫 (3) 発展的学習の指導内容の充実 (4) 一部教科担任制の充実</p> <p>研究の内容・方法 手だてによって期待される子どもの姿や学習過程における「確かな学び(瞳キラッ!)」の表れを具体的に想定する。それに照らして教師のかかり方が妥当であるかを検討する。</p> <p>(1) 授業全体記録 (2) 抽出児童の記録 (3) 児童の自己評価・感想 (4) 他の学級での実践との比較 ・保護者等の参観を得て、授業についてのアンケート調査等で感想を集約し、参考にする。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制

長町小学校 校内研究組織図



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>【視点1】「少人数指導の指導内容と形態の工夫」について 学習内容と児童の実態に即して指導内容と形態を工夫することを通して、少人数指導(単純分割, 習熟度別, 興味・関心別など)の利点や問題点を明らかにしながら, 特に基礎的, 基本的事項の知識・理解面, 技能や表現力の向上に関して児童一人一人にきめ細かな指導を行うことができた。 初の国語の少人数指導(低学年「読むこと」, 中学年「話すこと・聞くこと」の領域を中心とした)の結果, 児童の学習に対する意欲を喚起し, 学んだことを積極的に生かそうとする姿が見られた。</p>
--

少人数指導の中にペアやグループでの学習を効果的に取り入れることにより、互いに学び合いながら理解を深め、確実にしていく児童の姿が見られた。低学年から習熟度を基本とし教師の助言をもとに児童に学習コースを選択させる「コース選択少人数指導」や「興味・関心別少人数指導」などを取り入れることにより、高学年で目指す「一人一人の学びの実現」に向けて素地づくりの見通しをもつことができた。

具体的な取り組み(例)

- ア スキルタイムでの「確かな学び」への取り組み
(・「読書タイム」/・「さくらんぼ学習」/・「スキルタイム」学習プリントの開発)
- イ 全校の少人数指導体制づくり
(・全学年算数科の少人数指導体制づくり/・高学年での教科担任制の試行/・少人数指導担当者との打ち合わせ時間の確保)
- ウ 国語(1・3年)、算数(2・4・5・6年)の全校授業研究(含む学校訪問)と学年独自の少人数指導の試み
(・1学級2または3分割、2学級3分割・4学級5分割の種々の形態による少人数指導)

【視点2】「評価を生かした指導過程の工夫」について

各授業における評価規準を、1時間内に教師が重点的に行うもの1つと、練習問題の結果や自己評価、感想を基に判断するものに分けて考え、児童一人一人の到達度をしっかりと見とることにより、続く指導過程において個を生かした学び合いを展開したり、即時の個に応じた支援を行ったりすることができた。

学年に応じた学習振り返りカードを作成、活用したことで、児童の自らの学びを振り返る力を高めるとともに、教師も次時以降の指導形態の工夫や個に応じた支援に生かすことができた。

レディネステストや単元途中の基礎的内容の評価後、どの観点の習熟度に着目するのかを明確にした習熟度別指導において、各々個別指導中心、一斉指導と自力解決、自力解決中心などのように、全体計画に基づいて指導過程を工夫することができた。

具体的な取り組み(例)

- ア 時間ごとの評価規準の作成と観点を絞った評価の工夫
(・単元を通した評価記録/・評価規準Bを達成できないと予想される児童固有の評価規準づくり/・互いの考えのよさに気づき学びの楽しさを実感させる教師の賞賛/・評価計画を取り入れた指導計画の作成)
- イ 学習振り返りカードの活用(全学年)
- ウ 個に応じた指導のための諸調査
(・C R T観点別標準学力調査/・少人数指導に関する児童の意識調査(年2回)/・単元ごとのレディネステスト、ソシオメトリー調査等/・単元のまとめりごとの診断テスト/・単元終了時の事後テスト及び意識の変容に関する調査/・家庭学習の状況把握と啓蒙のための家庭学習カード)

【視点3】「発展的学習の指導内容の実践」について

単元の展開段階で学んだ基礎・基本の上に、終末段階で新たな内容を作り上げたり、基礎・基本を活用して問題を解決したりする発展的な学習を設定するなど、意図的な単元展開を組むことにより、基礎・基本の定着が一層図られ、児童に学ぶ意欲の高まりが見られた。

全員一斉で、または習熟度別学習における発展的学習の内容を多面的に検討することができた。

具体的な取り組み(例)

- ア 発展的・補充的学習のための教材の開発
(・難易度の異なるスキル問題づくり/・教材や学習資料の作成)
- イ 単元構成の工夫
(・国語科における単元の展開段階での学びを生かした、終末段階における多様な表現活動及び交流の場の設定/・算数科における単元の終末段階に学習内容(方法)選択による発展的学習の設定/・単元の展開段階及び終末段階での習熟度別による発展的(補充的)学習の設定)

【調査結果】

意識調査の結果から

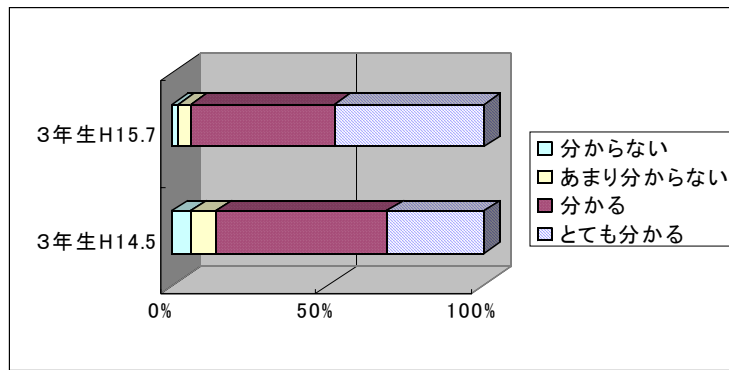
昨年度から少人数指導(算数)を実施している3年生・4年生の意識調査から平成14年5月に比べ、15年7月では「算数の勉強が分かりますか。」の問いに対して、3年生では「とても分かる」が31%から48%に上昇がみられた。(資料1)また4年生でも40%から55%と上昇がみられ、児

童が少人数指導に対して分かりやすく理解できるという意識が高まっている。
 (資料2)

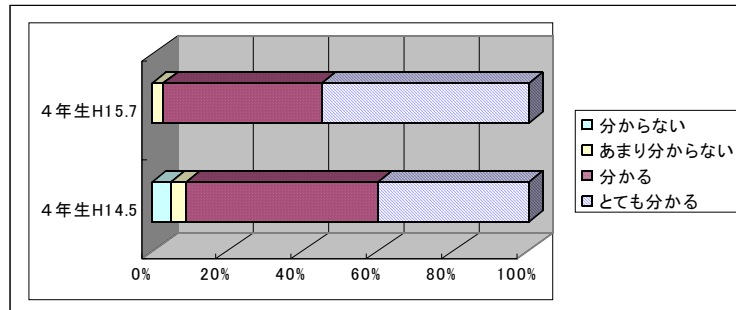
学力調査(国語・算数CRT観点別標準学力検査)

- ・国語については全国に比べてA評価(十分満足できる)の割合が高く前年度に比べても3年生を除いてA評価の割合は増加している。(3年生はA評価の全国の割合が前年度70%だったのが55%と落ち込んでいるところから見ても検査内容の難易度よるものと考えられる。)
 - ・算数については全国に比べ6年生を除いてA評価(十分満足できる)の割合は高くなっている。6年生についても前年度と同水準である。全国的に見ても学年が上がるに従ってA評価の割合が減少する傾向が見られ、当校の場合も同様である。特に高学年になると国語に比べ差が大きくなるのがわかる。
- 前年度との比較については指導要領の移行期の内容と完全実施の内容と今年度との違いがあり単純には比較することはできないが大まかなの傾向として考えたい。

資料1 意識調査3年(算数の勉強がわかりますか)



資料2 意識調査4年(算数の勉強がわかりますか)



資料3 国語CRT観点別標準学力検査

(A 十分満足できる B おおむね満足できる C 努力を要する)

国語	A			B			C		
	本年度	前年度	前学年	本年度	前年度	前学年	本年度	前年度	前学年
2年	83%	81%		16%	15%		2%	4%	
全国	66%	62%		28%	26%		6%	12%	
3年	77%	88%	81%	20%	8%	15%	3%	4%	4%
全国	55%	70%	62%	35%	21%	26%	8%	9%	12%
4年	78%	69%	88%	18%	23%	8%	6%	8%	4%
全国	49%	46%	70%	38%	35%	21%	13%	19%	9%
5年	74%	56%	69%	20%	30%	23%	5%	14%	8%
全国	59%	39%	39%	32%	45%	35%	9%	16%	19%
6年	68%	62%	56%	30%	34%	30%	2%	4%	14%
全国	58%	51%	39%	36%	38%	45%	6%	11%	16%

算数C R T観点別標準学力検査

算数	A			B			C		
	本年度	前年度	前学年	本年度	前年度	前学年	本年度	前年度	前学年
2年	96%	91%		3%	6%		2%	3%	
全国	87%	78%		10%	16%		3%	5%	
3年	90%	80%	91%	6%	16%	6%	4%	4%	3%
全国	81%	56%	78%	16%	31%	16%	4%	12%	5%
4年	89%	64%	80%	6%	27%	16%	5%	9%	4%
全国	75%	53%	56%	19%	30%	31%	6%	17%	12%
5年	72%	27%	64%	22%	37%	27%	6%	36%	9%
全国	61%	35%	35%	27%	37%	30%	8%	28%	17%
6年	38%	33%	27%	41%	40%	37%	21%	22%	36%
全国	57%	37%	35%	33%	34%	37%	10%	29%	28%

2. 今後の課題

【視点1】

児童の実態を早期に調査してつきたい力を絞り、年間を見通して国語・算数の少人数指導の位置付けを明確にして取り組むことにより、「確かな学び」を偏りなく築くことができるようにする。

課題別、興味・関心別、習熟度別等の少人数指導の利点、問題点をより明らかにしながら実践し、長町小学校としてのたてと横（6年間の領域ごとの系統と各学年の指導内容と形態の吟味）の関係を整理した「指導計画」に反映させていく。

【視点2】

観点を絞った毎時間の評価記録を累積し、それを基にした教師間の情報交換を密にすることを通して、単元を通した一人一人の児童への支援を計画的に行ったり、児童の取り組みや考え方のよさを積極的に取り上げ全体に広げたりしながら、評価から評定への道筋を明確にしていくようにする。

たての系統も考えながら、教科や学年の特性に応じた振り返りカードの内容を検討・吟味する。

従来の単元の評価規準や観点別評価計画を見直し、単元の重点評価基準一覧（*仮称）を作成することを通して、見とりをより確かなものとし、個に応じた指導を充実させる。

【視点3】

児童の学習状況を事前に適切に評価し、児童が自ら工夫したり発展させたりしていけるような教材を選択したり学習の場を用意したりするなど教材選択や指導方法を工夫しながら、補充的学習と共に単元計画の中に明確に位置付ける。

何をどう発展させるのか、次の学年にどうつなげていくのかを明らかにし、その評価についても探る。

次年度の方向性（重点化）

- (1) 来年度の公開に向けては、特に「学ぶ力（思考力・表現力・問題解決能力）」の育成に重きを置いて研究を進めていきたいと考えている。
- (2) 【視点1】については有効な手だてが設定され効果を上げてきたが、【視点2】【視点3】からの手だてについては、評価のあり方や発展的学習のとらえなどについて共通理解が不十分だったり、手だてが精選されなかったことなどにより、有効性が十分に明らかにならない面が見られた。したがって、次年度は今年度得られた成果を基に、長町小学校として児童一人一人に「学ぶ力」をはぐくむための国語・算数での少人数指導を効果的に取り入れた授業モデルや指導計画（単元の重点評価基準一覧を含む）を明らかにしていきたい。さらに、【視点2】を「評価を生かした単元構成の工夫」として、【視点3】との関係を明確にしながら個に応じた「評価と指導の一体化」を目指して授業づくりを進める。
- (3) 視点からの手だてを有効にはたかせるための教師の見とりと評価について、視点からの具体的な手だての設定とともに、十分に吟味して授業づくりを進める。特に、手だてを講じる前と後の児童の具体的な姿の変容をどのように見とり、評価し、それをどう返していくのかが重要になると考える。

